

2025年度 愛知学泉短期大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
36403	デッサン Dessin	中村 友美	✓	専門	1	選択	1年、2年前期

科目の概要

アート作品やデザイン作品などの制作をする上でデッサンの力は基礎となる重要なものです。この授業では、色々なアプローチで対象を説得力ある表現で描ける力「描写力」と、モチーフの構造や成り立ちなどの本質を理解する「造形力」、また「色彩力」を修得します。また担当講師のパステルイラストレーターとしての技法研究の経験から、パステルの表現方法を、鉛筆・色鉛筆での表現に加えてわかりやすく解説します。デッサンの授業はディプロマポリシーの②③④に相当します。授業をとおして、社会的に自律して人生をデザインし生きていく上で必要な知識・技能、また専門的知識や社会人基礎力・p i s a型学力・直観力を身に付け、独自の表現ができるように潜在能力開発に努めてほしい。

学修内容	到達目標
① デッサンの基本技術を身に付ける。 ② 鉛筆の表現技法、光と影（陰）の現象について学ぶ。 ③ 質感や量感について学ぶ。 ④ 色鉛筆の技術を身に付ける。 ⑤ パステルの技術を身に付ける。	① 基本的なデッサン力を身につけることができる。＜ディプロマポリシー②③④に相当。＞ ② 鉛筆の特性・技法を習得し、光と影（陰）について理解でき、上手に描くことができる。＜ディプロマポリシー②③④に相当。＞ ③ 質感や量感について自由にデッサン表現し描くことができる。＜ディプロマポリシー③④に相当。＞ ④ 色鉛筆の技術・特性を使用し、色付きで上手に対象物を描くことができる。＜ディプロマポリシー③④に相当。＞ ⑤ パステルの技術・特性を使用し、色付きで上手に対象物を描くことができる。＜ディプロマポリシー③④に相当。＞

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素

学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例

前に踏み出す力	主体性	予習や授業の中でわからないことがあれば、そのままにせず教員に質問をして解決した。
	働きかけ力	
	実行力	失敗やトラブルがあってもあきらめず、目標達成に向けて行動した。
考え抜く力	課題発見力	自分の学修上の問題点の解決策を考えた。
	計画力	
	創造力	授業で修得した事を応用して、新しい発想のもと課題に取り組むことができた。
チームで働く力	発信力	質問事項を話だけで伝えるのが難しい場合には、紙に描いて説明した。
	傾聴力	教員から聞いた話の中で分からない点があればそのままにせず、確認した。
	柔軟性	
	状況把握力	
	規律性	遅刻、無断欠席をせず、授業が円滑に進行するようにルールを守ることができる。
	ストレスコントロール力	ストレスを感じることがあっても重く受け止めすぎずに、手を動かしていくことができる。

テキスト及び参考文献

テキスト：必要に応じてプリントを配布する

参考文献：「基礎から身につくはじめてのデッサン」（梁取文吾/西東社）、「イチバン大切なデッサンの教科書」（上田耕造/新星出版社）、「写真にしか見えない色鉛筆画上達ドリル〔基本編〕」（イロドリアル/グラフィック社）、「手軽でたのしいふわかわパステル画」（中村友美/誠文堂新光社）、「やさしい人物画」（A. ルーミス/マール社）

他科目との関連、資格との関連

他の科目との関連：色彩と表現、基礎デザイン

資格との関連：なし

学修上の助言	受講生とのルール
・形や質感や影など、じっくり見て観察をして描くことがデッサンを上達させます。 ・できるだけ形を正確に描くことが基本となります。 ・鉛筆は、4Hから6Bまでのものを準備して描くと、細かな濃淡の差が描けて良い作品に仕上がると思います。	・出席が必要日数に満たない場合は無資格となる。 ・欠席や遅刻の多い学生・授業態度の悪い学生はマイナスに評価する。 ・作品の提出期限を過ぎての提出は認めない。 ・作品の制作点数は5～6作品くらい仕上げます ・授業で使用する画用紙や鉛筆、消しゴム、練り消しゴムは各自で準備すること。

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標				各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	0	①				各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント
				②				
				③				
				④				
				⑤				
	平常評価	小テスト	0	①				
				②				
				③				
				④				
				⑤				
		レポート	0	①				
				②				
				③				
				④				
				⑤				
		成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）	90	①	✓			
				②	✓			
				③	✓			
				④	✓			
				⑤	✓			
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓				
			②	✓				
			③	✓				
			④	✓				
			⑤	✓				
総合評価割合			100					

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
デッサンの技法を使い画用紙に全課題のデッサン作品を描く。 A：制作課題に対して、一生懸命に制作に励み、デッサンの技法に優れ、完成度の高い作品として仕上がっている。 ・テクスチャーや光と影（陰）・距離感・空間感なども表現できている。 ・画材の使い方も上手である。 S：Aの基準に加えて、積極的な受講態度が見られ、作品は高い評価を得ている。 ・デッサンの知識や技術などが一定レベル向上していて大変素晴らしい作品である。	B：制作課題を完成できており、デッサンの知識や技術（鉛筆・練り消しゴムの使い方など）は一定レベルに達しているが、作品の良さや魅力をあまり感じない。 C：制作課題を提出できた。（先生の指示を受けないと制作を進めることができない。作品の仕上がりに粗雑なところがみられる。デッサンの知識や技術が未熟。）

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間 (分)	能力名
1	導入。 「デッサン」について解説。 授業の内容や必要な画材等について説明。参考見本などを観ながらこれからの制作について知る。 自分の手をデッサンして仕上げる。	講義と質疑応答 合わせてGoogle Classroomにて次回授業について伝達。	授業についての取り組みを理解し、デッサンの概要を把握することができる。	(復習) 授業の内容について説明した内容を復習する。 これから使用することになる画材について調べておく。	100	主体性 実行力 発信力 傾聴力 規律性
2	基礎の修得① 鉛筆の持ち方、鉛筆の種類、練り消しゴムの使用方法などについて修得する。立体の描き方(光と影(陰))について学ぶ。画用紙でモチーフ用立方体・円柱を制作する。	講義と実習 講師が制作方法の説明後、各自が作品制作する。作品は確認後、フィードバックし講評する。 合わせてGoogle Classroomにて次回授業について伝達。	鉛筆の持ち方、鉛筆の種類、練り消しゴムの使用方法について理解できている。	(予習)立体の描写方法について復習し理解しておく。 (復習)鉛筆の持ち方、鉛筆の種類、練りゴムの使用方法についてまとめる。	135	主体性 実行力 課題発見力 創造力 傾聴力
3	基礎の修得② 立方体と円柱を描写する。構図の取り方、形の取り方、光と影(陰)の現象、対比効果、奥と手前の表現、等を実際に描くことで身に付けていく。	講義と実習 講師が制作方法の説明後、各自が作品制作する。作品は確認後、フィードバックし講評する。 合わせてGoogle Classroomにて次回授業について伝達。	デッサンの構図の取り方、立体表現、影(陰)の描き方、ボリューム感のつけ方など意識して描くことができる。	(予習)空き時間に色々なものを書いてデッサンの練習をする (復習)デッサンの構図の取り方、立体表現、影の描き方、ボリューム感のつけ方、対比効果、などについてまとめる。	135	主体性 実行力 課題発見力 創造力 傾聴力
4	基礎の修得③ 立方体と円柱のデッサンを完成させる。構図バランスを考え、立体物の表現、光と影(陰)の表現、奥と手前、対比、それらによる効果を修得する。	講義と実習 講師が制作方法の説明後、各自が作品制作する。作品は確認後、フィードバックし講評する。 合わせてGoogle Classroomにて次回授業について伝達。	構図バランスを考えて描き、立体表現、影(陰)の表現方法や距離感などについて練習できている。	(予習)空き時間にデッサンをより描き込み進めておく。 (復習)デッサンの構図の取り方、立体表現、影の描き方、ボリューム感のつけ方、奥と手前、対比効果、などについて学んだことをまとめる。	135	主体性 課題発見力 創造力 傾聴力
5	質感表現① ビン、紙、布などの異なる質感のモチーフを組み合わせて描く。モチーフの素材により明暗や影・陰のつき方が異なることを、よく観察する。	講義と実習 講師が制作方法の説明後、各自が作品制作する。作品は確認後、フィードバックし講評する。 合わせてGoogle Classroomにて次回授業について伝達。	ビン、紙、布、などの異なる質感のモチーフを組み合わせて描き、影の表現方法や距離感などについて練習できる。	(予習)影・陰の表現方法や奥と手前の描き分けによる距離感を出す練習をしておく。 (復習)ビン、紙、布、などの異なる質感のモチーフを組み合わせて描く、影の表現方法や距離感などで学んだことをまとめる。	135	主体性 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力
6	質感表現② モチーフ同士の距離感・空間感の表現を学ぶ。構図バランスを意識しながら、一つ一つのモチーフを描写していく。存在感についても学ぶ。	講義と実習 講師が制作方法の説明後、各自が作品制作する。作品は確認後、フィードバックし講評する。 合わせてGoogle Classroomにて次回授業について伝達。	モチーフ同士の距離感・空間感や、構図バランスを意識しながら一つ一つ描く事ができる。	(予習)質感、量感がより感じられるように描きこみを進めておく。 (復習)構図(画面バランス)、距離感、空間感、存在感などについて学んだことをまとめる。	135	主体性 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力
7	質感表現③ 異なる質感モチーフのデッサンの仕上げ段階に入る。それぞれの質感をより感じられるように細やかな観察をし、描き込む。学生それぞれの個性や長所を伸ばせるよう指導していく。	講義と実習 講師が制作方法の説明後、各自が作品制作する。作品は確認後、フィードバックし講評する。 合わせてGoogle Classroomにて次回授業について伝達。	質感の異なるモチーフをそれぞれにあった表現で描くことができている。また、構図バランス、モチーフ同士の距離感・空間感も意識されている。	(予習)異素材などの質感の表現は鉛筆の濃淡を使い分けたり、筆圧やタッチを変えて表現する。作品がより説得力を持つよう、描き込んでくる。 (復習)質感の描き分け、構図バランス、存在感、距離感、などについて、またこの課題により得られた学びをまとめる。	135	主体性 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力
8	色鉛筆デッサン① 色鉛筆による描写を学ぶ。色鉛筆の技法を実際に体験し、修得する。	講義と実習 講師が制作方法の説明後、各自が作品制作する。作品は確認後、フィードバックし講評する。 合わせてGoogle Classroomにて次回授業について伝達。	色鉛筆の使い方、描写の方法について確認することができている。	(予習)色鉛筆の色々なメーカーについて調べておく。 (復習)色鉛筆表現に慣れるよう練習を重ねておく。	135	主体性 実行力 課題発見力 創造力 傾聴力

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間 (分)	能力名
9	色鉛筆デッサン② ペットボトル飲料1本（または色味のあるモチーフ）を色鉛筆で描写する。鉛筆で描いていた時の「明度」「彩度」だけでなく、「色」が加わることを体験し、その表現を身に付ける。	講義と実習 講師が制作方法の説明後、各自が作品制作する。作品は確認後、フィードバックし講評する。 合わせてGoogle Classroomにて次回授業について伝達。	色鉛筆の、柔らかく淡い描写と筆圧の高い力強い描写、またタッチなどを活かして描くことができる。	(予習)遠近感の練習をしたり、画面の強弱の表現の練習を重ねておく (復習)説得力ある描写となるよう、さらに描き込みをする。	135	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力
11	パステルデッサン① パステルによる描写を学ぶ。パステルの技法を実際に体験し、修得する。	講義と実習 講師が制作方法の説明後、各自が作品制作する。作品は確認後、フィードバックし講評する。 合わせてGoogle Classroomにて次回授業について伝達。	パステルの、独特な淡い表現、また強く重ねて塗る表現、タッチなどを描くことができる。	(予習)パステルという画材について調べておく。 (復習)パステルに慣れるよう、練習を重ねておく。	135	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力
12	パステルデッサン② 「空と雲」を含む風景をパステルで描写する。（資料持参）練り消しゴムによるイレージングの効果を含む技法の応用を修得する。	講義と実習 講師が制作方法の説明後、各自が作品制作する。作品は確認後、フィードバックし講評する。 合わせてGoogle Classroomにて次回授業について伝達。	パステルと練り消しゴム・消しゴムを使い、空と雲を含む風景を、描写できている。	(予習)パステルに慣れ親しむため、パステルを使い練習をしておく。 (復習)説得力ある描写となるよう、さらに描き込みをする。	135	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力
13	着彩【人物】① 色鉛筆とパステルを使用して「人物の顔」を描写する。（写真資料を各自持参）最初に人物の頭部構造を学ぶ。	講義と実習 講師が制作方法の説明後、各自が作品制作する。作品は確認後、フィードバックし講評する。 合わせてGoogle Classroomにて次回授業について伝達。	人物頭部構造を学び、理解し、頭部構造図を描くことができる。	(予習)光と影（陰）の視点から、より自然光に近い人物資料を選び、練習しておく。 (復習)構図バランスも含め、形取りを進め、描き込みができるよう進めてくる。	135	主体性 実行力 課題発見力 創造力 傾聴力
14	着彩【人物】② 形体を把握し、頭部構造を捉えたうえでの描写をしていく。これまでに学んできた、光と影（陰）、質感、距離感、なども頭におきながら、色鉛筆とパステルの特徴を活かして描写していく。	講義と実習 講師が制作方法の説明後、各自が作品制作する。作品は確認後、フィードバックし講評する。 合わせてGoogle Classroomにて次回授業について伝達。	構図バランスを取り、頭部構造を理解の上で、目・鼻・口などをうまく配置できている。	(予習)人物デッサン、描写の練習を自宅でも行い上達できるように練習する (復習)構図バランスを取り、頭部構造を理解の上で、目・鼻・口などをうまく配置できているか確認しながら描写を進める。	135	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力
15	着彩【人物】③ 色鉛筆・パステルによる人物着彩の仕上げ段階に入る。目・鼻・唇などのパーツだけが浮いて見える描写ではなく、一つの立体物の中の凹凸や繋がりを意識する。	講義と実習 講師が制作方法の説明後、各自が作品制作する。作品は確認後、フィードバックし個別評価・コメントする。 合わせてGoogle Classroomにてまとめ伝達。	人物頭部デッサンを色鉛筆とパステルで仕上げるができる。	(予習)全体的に存在感を持った人物描写となるよう、描き込みをしていく。 (復習)人物頭部デッサン、これまでに学んだデッサンについてまとめる	135	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力
10	オンデマンド授業 改めてデッサンする意味とは、良いデッサンとはどのようなものか、解説を聴き、自らも考える。 「手」を好きな画材で描く。	講義と実習（オンデマンド授業） 講師が動画等にて講義、そして制作方法の説明後、各自が作品制作する。作品は確認後、フィードバックし個別評価する。	デッサンを数多く描き良い作品に仕上げることができる。担当講師の講評をしっかりと聴き、考察することができる。	(予習)デッサンやクロッキーの技法や知識についてまとめる (復習)これまでに学んだデッサンの基礎技術の修得についてまとめる。	135	主体性 実行力 課題発見力 創造力 傾聴力

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力